

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ

第145版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵

楽しみながら学ぶ



各園、協力をしてゴールを目指しています！

セミナーの特徴は、保育の中でどのような環境設定をしたら子どもたちや職員に活かしていけるかを話し合い、実践して頂くところにあります。2つの設問について各園で考えて頂き、発表し合い、次回の後編セミナーまで、各園での実践期間となります。

「アースゲーム」と呼ばれる、海外のボードゲームを使用したウェブセミナーを開催しました。「アースゲーム」は、「協働」や「協力」を目的としたゲームです。

もちろん子どもたちが遊んで楽しいゲームであり、大人が遊んでも盛り上がりやすい。チームで働く上で大切な要素を楽しみながら体感できるセミナーに、14施設の先生方にご参加頂きました。

ウェブセミナーの特性上、各園から音声は出ないよう設定していますが、どの園も、画面越しから楽しんでいる姿が伝わってきました。



アースゲームの「Max」を使った研修を実施しました。黒猫の「Max」に捕まらないよう小動物を逃がすゲームです。

後編のセミナーでは、各園で行った子どもたち・職員同士の環境設定について実践発表をして頂きます。どのような発表をお聞きできるか、今から楽しみです。

ついに完成しました！



必要な時に、必要な選択肢をご案内できるサイトを目指します！

以前より、子ども主体の保育を進めていく時に、どんなことを大切にしたらいいの？困った時はどうしたらいいの？みんなはどんな風にそれを乗り越えているの？というご相談の機会をいただいております。そしてお客様の現状のお悩みをお聞きして整理する中で「カグヤのサービスで直接お力になれること」と「お悩みに役立つカグヤ以外のサービス」があることに気づきました。例えばギンギツリ代表の藤森先生の書籍やDVD、セミナーや園内研修などから始まり、園の課題に合った保育家具を扱っている企業様や、子ども主体の保育を展開しやすい園舎設計を行っている設計事務所様など様々な方々の扱っているサービスのことです。

今まではご相談いただいたお電話口でその都度ご紹介をしておりましたが、それでは弊社にお電話いただいたお客様しかその選択肢を知ることができません。この「子ども主体の保育を支える様々な方々の存在」と

「お悩みに合った選択肢」というものをどうにかお客様の見える形にできないだろうかと考え、この度「保育応援ナビ」というサイトを立ち上げました。このサイトには、「子ども主体の保育」を行う際の5つのポイントを踏まえ、それらのポイントにお役に立つリンク先をご紹介します。

これからの時代、企業の枠を超えて「子ども主体の社会」を作っていく「場づくり」の必要性を感じます。これからこのサイトをお客様の声を元により良い場として育んでいけたらと思っています。

盆行事

先月号の竹取新聞でもご紹介しました、福岡県飯塚市にある藁ぶき古民家「和楽（わら）」が無事に甦生し、そちらの床の間で初めてお盆をテーマに室礼をしました。

ご先祖様との繋がりをより感じやすいお盆は、かつて旧暦7月15日を中心に行われてきましたが、旧暦のとおりに行う地方もあれば、新暦の7月15日で行う地方、月遅れの8月15日に行う地方と様々。室礼では、地方によって盛るものもそれぞれ違ってきますし、とりわけ盆行事となると、地方や各家庭で違いのあることが分かります。



初めての場での室礼は、原点や初心に戻る機会にも。

方の根っこの部分を形づくるものは、気候や地質など様々な要素からなる「風土」です。そんな風土に根ざし、古くから受け継がれているものが沢山ある中で、それらがなぜ長く受け継がれているかに意識を向け考えてみることも、今の不安定な時代において大事なことであり、生きる上で何かしらのヒントを得られるかもしれません。

今は、暮らしの中から季節感や風物詩が失われつつあり、地域社会そのものも変化して行事の伝承も難しくなってきたのを感じます。だからこそ、地域に受け継がれてきた伝統行事を次世代の子どもたちに繋いでいくことは、今の大人にとって大事な役割だと感じます。そして私たち大人でさえも知らないことが増えてきている中で、暮らしの中にある行事は、園でも家でできますから、まずは子どもたちと楽しみながら、伝統を知るきっかけをつくることから始めてみて、一緒に学んでいくのも素敵だなあと感じています。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

世界の国々を知る



選手の活躍が、暗いコロナ禍を明るくしてくれましたね!

様々な議論を呼んだ東京オリンピックが閉幕しました。本来であれば子どもたちは海外の選手と交流をしたり、観戦に行ったりと、貴重な体験ができるはずでした。学校や園でもこの機会に異文化を学んだり、スポーツから世界を知れるような用意を下さっていたと思います。残念ながら会場で応援することはできませんでした。

それでも実際にオリンピックが始まると、早速子どもたちは50音順で各国の選手が入場する開会式から目が離せず、次はあの国ではないかと予想してみたり、各国の文化や歴史的背景を説明するテレビのアナウンスに耳を澄ませていました。

自分とあまり歳の変わらない若い選手がメダルを獲得する場面では、選手を通した目線で世界を見ているようでしたし、ルールも知らない初めて見る競技でも、熱い戦いを食い入るように見ていました。この瞬間の感動は他の何にも代えがたく、言葉にできない体験だと感じます。

これからパラリンピックも開幕します。子どもたちはボッチャやブラインドサッカーなどを実際に体験して学んできました。画面を通してにはなりません。二度とないこの夏の体験を心に刻んでほしいと思います。

日本の智と慧

風のはたらき

「日本の秋は風に乗ってくる」と言われますが、今年はどうな秋を運んでくれるでしょうか。本来「風」というものは、温度のバラツキから生じる気圧の不均衡を均質化しようとして起こります。

風にはこの他にも「場を整え」たり、時には「風の便り」を届けたりしながら、いろいろな世界を吹き渡っているようです。この風そのものは透明ですが、日本には昔から「風のいろ」という言葉があって、吹き抜ける時に接した人や物の「心の色」

に染められていくとも言われます。それは、永い時間をかけて「和風」となり、地域的にはたとえば「京風」となり、あるいは学校の「校風」となり、会社の「社風」ともなっており、その特徴を現してきました。そのように見えない姿で大事なものに寄り添ってくれています。



風鈴はじつと風に寄り添って自らの音色で「夏風」の存在を教えてくれたり、「秋風」の訪れを伝えてくれています。

暮らしをととのえる

一期一会庵

蝉たちの大合唱の中、夏らしい猛暑の日々が到来しています。

日本の暮らしには四季折々の季節感というものがありません。この季節にはこの風物詩というように季節のリズムと共に私たちは暮らしを営んでいきます。そして私たちは小さな変化を季節から感じとって自然の流れに身を任せて全体の季節と調和していきます。この自然との調和の豊かさこそ真に生きている喜びでもあります。

私たちは便利な世の中にしていき効率よく人間社会を発展させてきました。それが反比例して幸福感というものの感性は次第に鈍ってきているように思います。その証拠に精神的にも病む人は増え、テレビでもインターネットでもすぐに批判や非難の報道ばかりです。

私たちの先祖は、「足るを知る暮らし」を実践し、自然と共に生きていく中で真の幸福を味わってきたのが歴史や文化を深めるとすぐにわかります。何もない中にこそ深い味わいのあるいのちがあり、そのいのちが

活かされていることを知り自分の役割を知らずして知るといふ具合に存在そのものへの感謝を味わい暮らしをしてきたのです。

この足るを知る暮らしは今の日本の伝統文化として受け継がれていますし、今でも私たち日本人のもつ情緒、豊かさの根源を支えています。私たちが日本人に生まれてきてよかったと思える瞬間はこの「懐かしい暮らし」にあると私は実感しています。だからこそ、四季折々の変化を味わうということが暮らしをととのえていくことになり、幸福感に満たされる日々を生きていくことの智慧です。

子どもたちには私たちの実践する暮らしフルネス™を通して本当の豊かさ、真の幸福を味わえる環境を用意して見守っていきたくと思います。

カグヤの取り組み暮らしの実践ととのえる場が子どもたちの未来を幸福にしていくことを祈りつつ、今日もご縁を大切に季節を結んでいきたいと思えます。



編集後記



全ての頑張る人がメダリスト!

今月も竹取新聞をご覧くださいありがとうございます。

オリンピックに関する記事から、長野県出身の私は子どもの頃、長野オリンピックを経験しました。クラスメイトが聖火を運んだことや、学校招待観戦でスピードスケート決勝の金メダル獲得の瞬間に立ち会ったこと、轟音のような

歓声に鳥肌が立ったことは今でも忘れられません。

今大会でも国を越えて喜び、讚え合う選手の姿があります。子どもたちはその姿から何を感じ取るのでしょうか。こんな時こそ物事の面白い方を見て、今この瞬間にしか味わえない感情や経験を心に刻んでほしいと思います。(眞田由莉)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-6733-7722

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて

